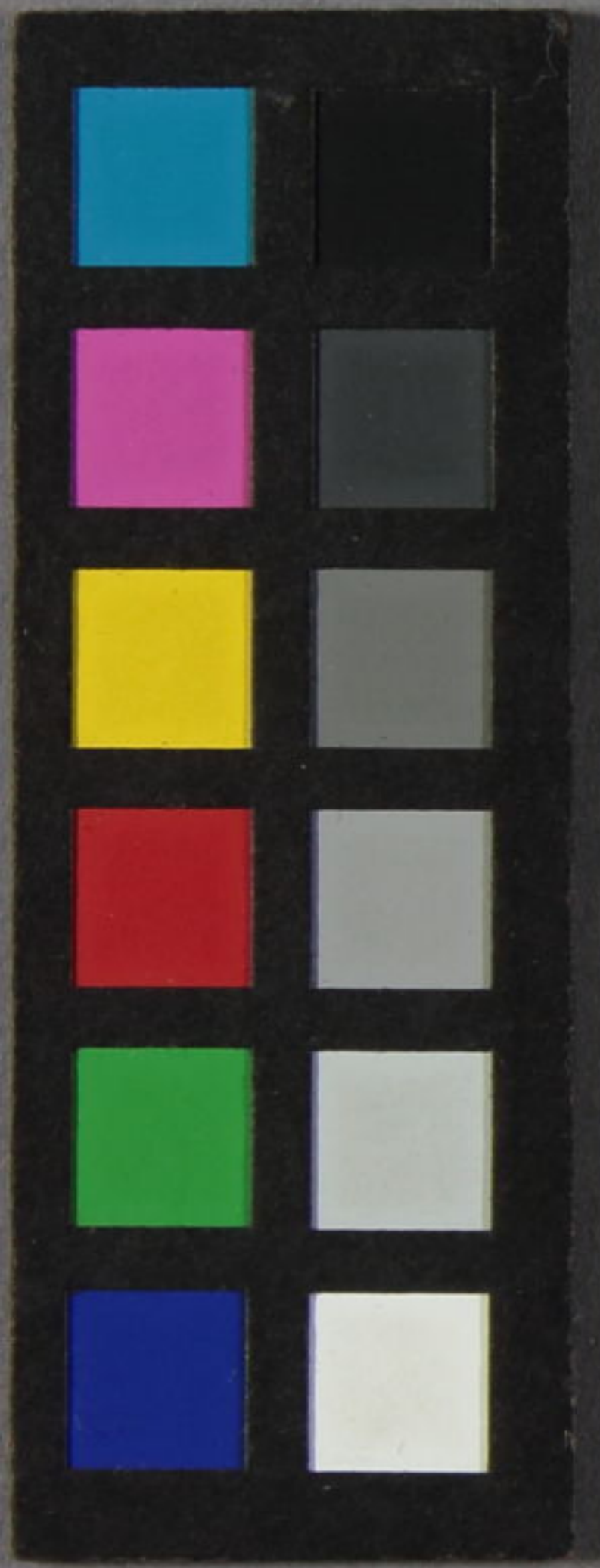


古連謠百韻 二卷  
制詞

伊地知文庫  
文庫20  
25





文庫20  
25



古連歌

制詞



有地知氏書冊

延德式子三月五日



左勅  
後柏原院



伊地知氏書冊

延徳元年三月五日



左 勅 後柏原院

右 宗任 松原侍繁令  
賢盛

書はやゝ入札所の為成  
政宣

月よ言の声を行へ  
宗祇

世の善し定て御事あり  
基任  
高よ山よあとしまへ  
宗長  
顧ふ起の心を  
有孝



いさしきし夜半くハ 義  
林と吹流所流方代松の内肖相  
定子ののあやあしの下房松在  
楊りれ流ハやとと冷くも

ニのりの物々のころりわるさき 宣

池代より作く云ふ及唐の 長

おろののそとそ過り又いせし 依

相並てまらやあきとさあし 戒

あひくし海一家ののそあし 孝

心のこころふす所の事をそ 栢

山の隈くそひりさすり 旅

何物といふよそくはく者あて 宣

あうあしおろす夜をそとらん 長

つづのりく者し課はた鹿ハ杖 杖

榎一はハ葉み交す枝 若

ゆり命をのしけさしあき 栢

あそあてふ糸打部を階角上 旅



山白根くさむひりすり根

竹海といふよき竹に宿あて宣

あつちしむるす夜をこしらへり長

つづのりる者い羅はた鹿の杖

樹一にハ羊氏きり友支様 若

海り命その秘けさしあきこ 栢

わそあてふ糸打部を階角上祇

織よりむの衣をり水り 宣

まきうまたはねるんおくらあや長

まき一ぬまやハ長しとあきこ 依

まきししあふし和きんあきの糸裁

まきさりしつりりしと若者

まきさくしきり年あまはかくは栢

まき一二方し定也海あり 祇

まきハハおしと和心山あけて 宣

まき中のねくし苑ハゆり 長

まきよ根まきよのまきの言 依



とすしんを正悦待の陸我  
勢見ゆし流し月とるんそ  
然あわす井ぬあう流し  
夏あお女右山寺あさひて  
夕たかそそ光さなりく  
疾り敷うしそりりま原の  
ふもあやうそよさひつそ  
み飛ともいころうろお海に  
旅さこころの海敷く  
つくたれあも浪の初田の原栢  
若思しはしく浦れのお  
村都てさそあもさう友商室  
んそてまあゆちりぞるら  
山のちとるそ月わめあし  
心あは流あつぬあつぬ  
りくこまをれをいそは  
きさあささるるゆの糸柳  
襦うりくそあひ朝あ  
ゆりあまの翅しゆあつぢとに

成

存

拓

紙

宣

去

依

裁

存

栢

旅

室

去

依

裁

拓

紙

宣

去

-5 785 55 855" data-label="Text">

依



長止はしく傳のた  
村都てさるる友商室  
んてまゆとちそるら  
山のとるて馬月あふし  
ひまはまのたの法と  
りくまをれをいしは  
きさあさるるゆの糸柳  
禰うとくくたふの都  
ぬる多の翅上禰うた  
比ら母つ(あう)まうせ  
裁をく突ハあつ—その  
新海ちうらみ少(さ)  
まじ月し浦のあし  
柳うとてそらうと  
二乃みうま(よう)あ  
迷ひさるるかんそ  
世とやいふとくは  
市と上のあふし  
かきくはくはし  
敬とまらう神よ  
柘 裁 依 長 宣 祇 柘 存 裁 依 長 宣 祇 柘 裁 依 長 宣 祇 柘



引くを成りて白ふくは  
折れぬ日のやそをこころ  
をるもや云が爪は切り  
ゆきひらうじくぬのき  
かしくしきあくにわき流の  
あまきんまきくこ初れ  
たつのがらおは神は  
極しきふれのかも  
声きくしきうくたの  
あふ寸涼くもよの  
きうきう付はふ  
あらし入るも細く  
海井すものちを  
まはすのちを  
そといひぬ  
るるよとさ  
あ公の教  
うきと  
我

祇

依

長

依

長

依

長

依

長

依

長

依

長

依



木下守治とてきよめのお用  
其うきう付はるふ秋の山 依七  
わろし入るも細く三日月 我  
海井すものちあをるうきう 陰の春  
春のうきうのうきうのうきう 依七

そいといふお断いさくもあは 依七

ころよととさこりあしとらさ 依七

お松の教うやととさこりあ 依七

うきうととさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七

あしととらさこりあしとらさ 依七



きしとて付ふわいしうしう  
まふう路うととふん  
河東のまふく難波の段の  
まふくたしとて付ふわいし  
うしう

勅鳥くう午上句内長四句  
家伴鳥くう中七句内長四句

白粉  
政宣

勅鳥くう内長七句  
家伴鳥くう内長七句



夕  
勅  
長  
也

勅  
長  
也  
也  
也  
也

政  
宣

家  
作  
長  
也  
也  
也

口  
子  
也

宗  
解

勅  
長  
也  
也

家  
作  
長  
也  
也  
也

送  
也

基  
依

勅  
長  
也  
也

家  
作  
長  
也  
也

長  
橋  
井

永  
仙  
入  
左  
下  
云

口  
子  
也

勅  
長  
也  
也

宗  
長



家傳長三句

勅一多内長二

有老

字一多内長一

勅一六句内長一

字一多句

勅一四句

字一多句

何路

何路

家初

皇德二年三月十日

...

...



















出づれば新入は法れ水あふれ  
何れも事代冠多きと枝國  
あきそとさう藤と境のたは母  
あきそとさう藤と境のたは母  
山陰くく計ありまのの  
増平は破れおれは海用  
り路の深の田新守持く  
枯る若くはくはくはくは  
露れ鳴夜をそれ月の物も来  
空へ飛はるか共終るくもる  
このりり界は村人ハこそ  
毎つく朝の泣くく奥山心  
玉色もきりり目くそ空板  
あつあつくくくくくくく  
銭もこと物持はせとけ打  
あつあつくくくくくくく  
老人ハさひの家をさう  
ひりりりりりりりりりり  
あつあつくくくくくくく  
山れちりりりりりりりり  
死の事れ枝と増ありりりり



色を其声すりまきれは細  
折也寸少用い一人の心しりし  
物部那丹其原く市とあるなり  
尼後く後く蛇とあるか  
おけをくしりくあはれ日  
ゆりく其神の米く日なや心  
つ〜こののあはれなるあはれ  
是安らるるあはれは心しりし  
あはれあはれはなる松丸  
お〜鳴海の甲はあはれ  
〜く〜身はか〜は定あはれ  
産地やく浦はあはれとある  
三雲の作家と作とある  
林は只山はともあはれ  
四方の本もあはれなる  
つ〜さ界の作もあはれ  
本は後の心しりし  
雲か〜は心しりし  
あはれなるあはれ  
あはれなるあはれ  
あはれなるあはれ  
あはれなるあはれ  
あはれなるあはれ











詠歌一躰

は比人のよるんりめ  
河文くしなをうす

くあらんれしやう橋の地は

ふんあふらんこまの山を渡

難波渡るまの浪もあはれ

梅りしも思ふらん朧月初ら

うふしちりさる先きん

花の香もせぬ道の草

お酒の宿は苑と吹

うんもあふらんこまの山を渡

山を渡るまの浪もあはれ

月あつらんこまの山を渡



言てはまきの藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志

藤ハ志 藤ハ志



おれ之事のまらふしあめ  
時くしらあつて横をの元盛  
よくしらつたのせめあつても  
淡く曇るく日多のやせ 西行

井之あり 首尾備し書りけり

ちりくやあ日のあれ又言 後書

小倉山時多らんをりの物なり

けんハ流りて四方に格系之家

あふ雲とらん山陰の下如系

おきそくや物麻れ鳴りて

あきとらん山を音りけり枯れし

いあて麻の書とてあし知候

鶴あくま舟の入れた流れし

尾ふあつてらん枯のうたを修頼

いしあつて毎の浅茅の上りて

あらの流りて 杉虫の音 式子州

鶴の流れりや 雄雉のあまの原

あき方とて 沖の流る 雲

あきしとて 舟のあまの原

あきとて 舟のあまの原

修



打ぬのちあしきまきしむの枝のあけ

三方之のりり枝のりり言 寂草

草 あけ ぬえあのさへ海は川と

海 あけ ぬり山川 あけ ぬり 海

老 あけ の偶や あけ をささる あけ ぬり

水 あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり

い あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり あけ ぬり



佐井の後のつた音のりかき言家  
しんすのあしきりかんの初め  
本家よりしんすのあしきりかんの初め  
いっつあしきりかんのあしきりかんの  
いっつあしきりかんのあしきりかんの

防備の松のりかんの松のりかんの

おとす松のあしきりかんのあしきりかんの

るんち社入あしきりかんのあしきりかんの

油さる松のりかんの松のりかんの

雲色松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの

あしきりかんの松のりかんの松のりかんの



やうな月の末のしきり  
う衣神の月と今う夜は

月と縁縁のん地とをきり

云い海りよとさくらん

慈恵のまらや

おやの海へぬ

あはしよひ

古守り

おし我

ころと

ありけ

一月の

ゆあ

高し山花や  
海は

有し

有山

有山河の



一...の...  
ゆあ...田...  
...

高...  
海...  
...

有...  
...  
有山河の...  
...

寛文元年九月十日

有...  
...

心本...  
...

花洛...  
...

守...  
...

佐草氏

真清

右朱点ノ...  
...



そのほじありのあゝ金のうねのゆゑ

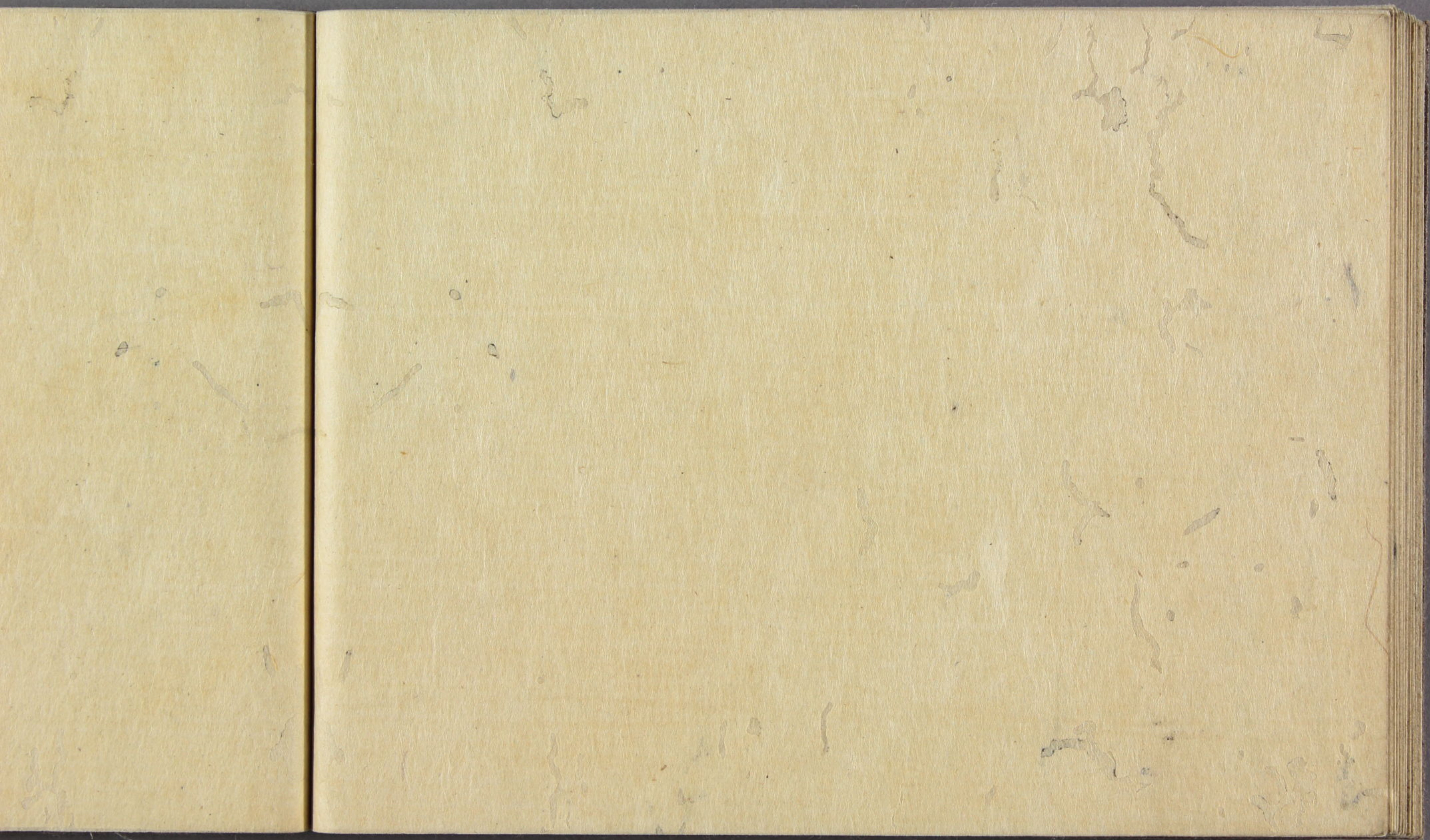
一ひくもつ夜をせ

昌経ヨリ信ス

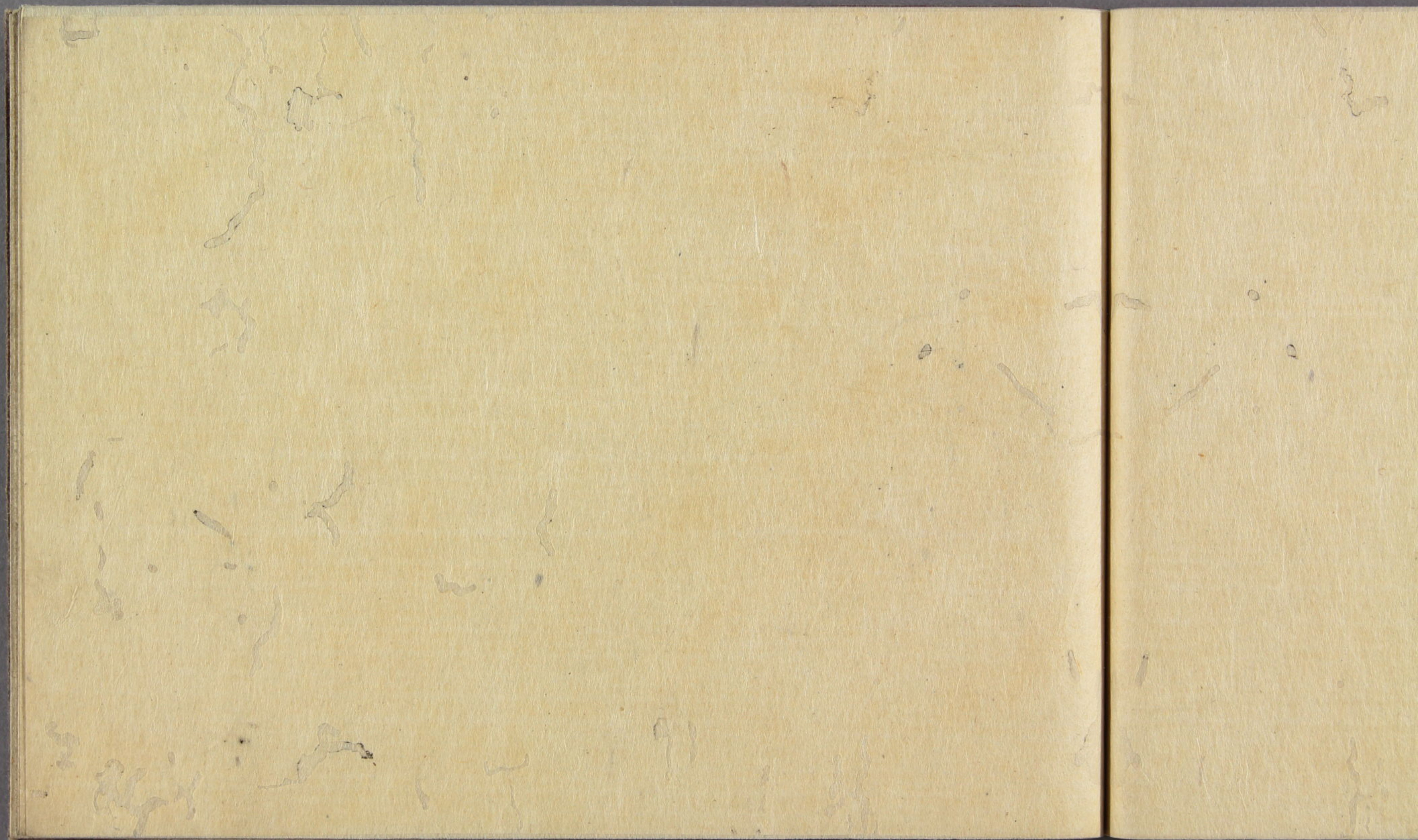
















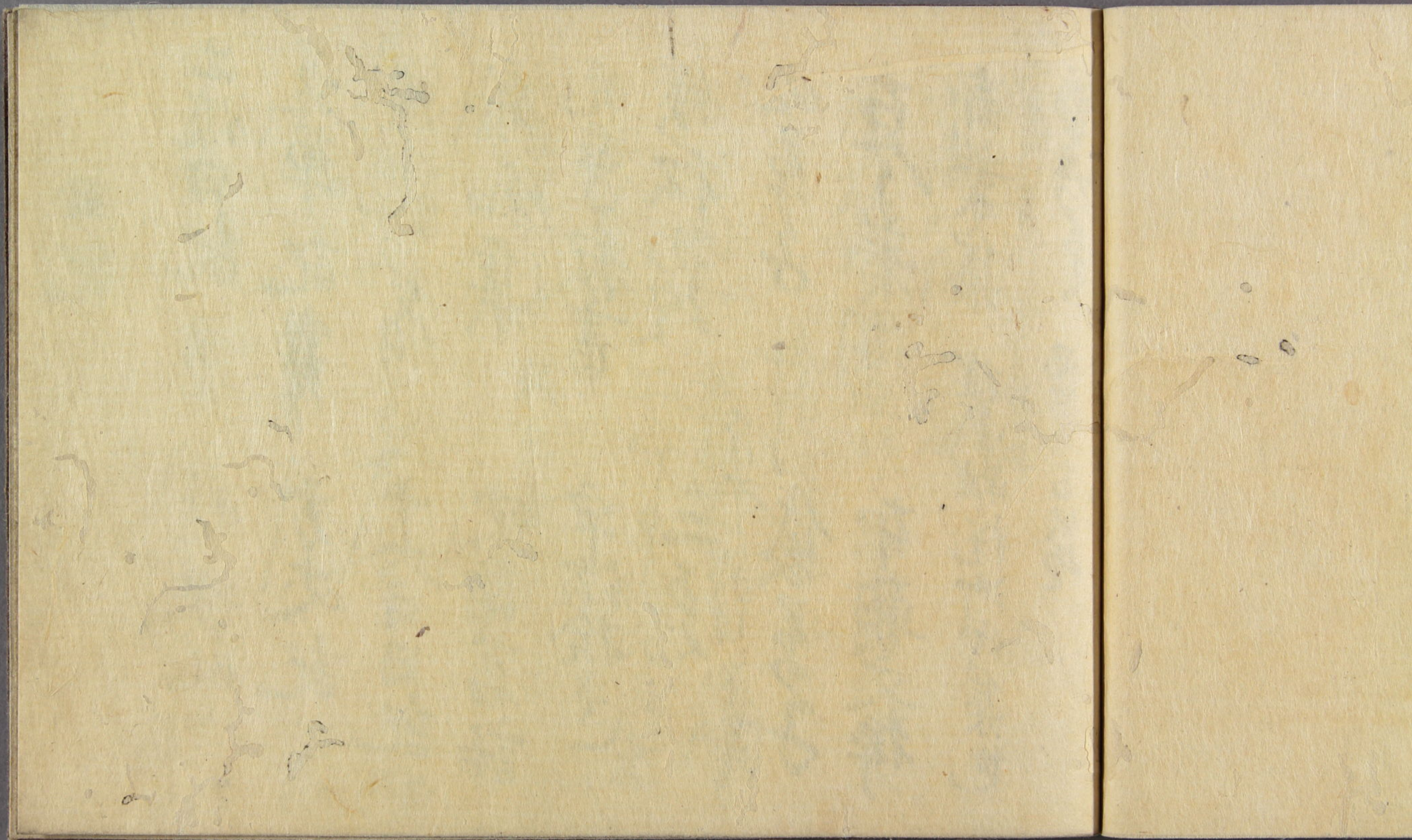














日記

土佐日記

著之

靖樂日記

道徳母作

長草記

方丈記

著

遊記

著

十六日日記

阿佛

雜和集

史館茗話

元亨了秋書

宇治拾遺

溪松抄

三流

大隈本

心草子

袋草子

古今著聞

本朝文粹

新葉集

後香社院河代集也

和忠書寫

西堂

西堂

三石

定母

年中行事

宇治之御公抄

序本

昌隆

昌隆

...



の... 集

古今著聞

本朝文粹

新葉集

後白河院御代集也

和忠書写

西堂

西堂

三万

三万

年中行事

宇治

序

志

後

和忠書写

代

和忠書写

和忠書写

和忠書写











